



和敬会だより

第146号

発行所
医療法人社団 和敬会
谷野呉山病院
富山市北代5200
<https://www.wakeikai.com>

発行人
理事長 谷野 亮一郎



日本医療機能評価機構
認定第 JC1435 号

発行日 令和6年2月9日

永年勤続表彰者代表から谷野理事長への謝辞 (創立記念式典での一コマ)



医療法人和敬会

基本理念

「希望に満ちた人生の回復を目指して 私たちはあなたと共にある」

基本方針

- ・専門職がチームで関わり、あなたの価値観を大切に医療を提供します。
 - ・常に研鑽に努め、安全で質の高い医療を提供します。
 - ・広く情報公開に努め、あなたと共に考える医療を提供します。
 - ・精神科救急体制の充実や社会資源との連携を図り、地域に根ざした医療を提供します。
 - ・環境に配慮し、地球にやさしい医療を提供します。
 - ・精神疾患に対する偏見の払拭、権利擁護に努め、あなたが自らの強みを発揮できる社会づくりを推進します。
 - ・人材育成に努め、当院に勤務する職員が自らの強みを発揮できる職場づくりを推進します。
- 私たちは基本理念を胸に抱き、健全な病院経営の下で以上の基本方針を実践します。

谷野呉山病院



職員募集専用



こちらの
QRコードから
webサイトも
どうぞ。



和敬会マスコットキャラクター
「ワケちゃん」

能登半島地震

理事長・院長 谷野 亮一郎



令和6年1月1日午後4時10分、石川県能登地方を震源にM7.6の能登半島地震が発生しました。富山県は震度5強、富山県では観測史上最大です。

その日、私はちょうど日当直で勤務中でした。経験したことのない揺れに、富山市に分布する呉羽山断層帯でとうとう地震が発生したか、と思いました。揺れが収まって間もなく、病院に隣接するグループホームの火災報知器が鳴り出しました。すぐに向かったところ誤報であり、とりあえず胸をなでおろしました（揺れでスプリンクラーのタンク内水位が変化したことによる誤報でした）。それから院内を回りましたが、幸い入院患者様、職員に怪我はありませんでした。震度4以上で停止する院内のエレベーターは案の定停止していました。ちょうどこれから夕食という時間でしたが、なかなか業者と連絡がつかず、やむを得ず階段で各病棟へ食事を運びました。エレベーターの復旧には必ず業者の安全確認が必要とのことで、業者の到着を待ち、その日のうちに復旧しました。院内各所に飾ってある絵は、落下・破損した場合に避難の妨げになると考え、ほぼ全てを一旦撤去することにしました（院内が若干殺風景になってしまいました）。1月4日以降改めて行った被害状況の確認で、当法人の就労継続支援B型事業所の壁に多数のひび割れを認めました。万が一を考え、市役所・保健所に状況を伝え「一時的ならば」と許可をもらい、院内に作業場を移転させています。当院の被害と言えばこの程度、と言えばこの程度です。

当院で精神科研修をしている富山赤十字病院の初期研修医が、これから被災地に赴くとのことです。朝方、県外ナンバーのDMAT救急車が、私の自宅から歩いて5分のホテル駐車場に入っていくのを目にします。ここを拠点にしており、一旦、石川から戻ってきたところでしょうか。そして、被災地で活躍しているDPATチームの姿をSNSで目にしながら、当院にできることを考えています。

認知症疾患医療センター 医療連携協議会を開催しました。

令和5年12月4日に、令和5年度医療連携協議会を開催しました。

コロナ禍では市町村担当者や関係医療機関に活動報告などを書面で報告するというかたちで開催していましたが、令和5年に感染法上の扱いも変わり、検討の結果4年ぶりに対面開催となりました。

当センターの実績報告のほか、参加いただいた各市町村担当者から高齢者・認知症に関する地域の取り組み、連携医療機関からは外来・入院など連携の実践を報告いただきました。



認知症の症状により生活困難になった方への速やかな医療提供は今後も取り組むべき大きな課題の1つであると再確認致しました。

高齢・若年の認知症に対して、地域に貢献できるよう、今回のご意見を参考に実践していきます。今後とも、宜しくお願い致します。

認知症疾患医療センター 石倉 直美

第42回院内学会「時代が求める精神科医療を考える」を開催しました

令和5年11月3日に第42回院内学会を「時代が求める精神科医療を考える」のテーマで開催し、無事に終える事ができました。

コロナが5類感染症になったことを踏まえ、開催方法についてはどこまで規制緩和できるかを考慮しながら検討し、昨年同様ZOOMと会場参加のハイブリッド方式を採用しました。会場参加を希望される方がより多く参加出来るように、昨年よりも会場の受け入れ人数を増やしました。

11題の演題発表があり、各部署における精神科医療の活動や課題を知ることができたと思われま。今回の学会前に募集した質問や会場内での質疑応答に関しては、今後発行する「院内学会論文集」でQ&Aとして掲載することになりました。

今後のチーム医療によい刺激となればと感じました。

第42回院内学会実行委員会 荒井 淳子



永盛 日和子 (クライスケア病棟)	認知症患者の行動制限最小化に向けた取り組みについて —高齢者の退院を見据えた課題—
宮田 優夏 (コ・メディカル課)	作業療法中断者の参加促進の取り組み —園芸種目の特性を活かしたプログラムを導入して—
◎嶋尻 智子 (コ・メディカル課)	33病棟の入院患者の特徴から 長期入院患者の退院支援を考える
長谷 希 (生活訓練センター)	希望する生活の実現のために 生活訓練センターが果たす役割
中村 依子 (33病棟)	活動量が低下している患者の 排便コントロールと精神状態の安定化
森田 翔吾 (ストレスケア病棟)	長期入院患者の退院に向けた支援 —退院意欲の喚起とキーパーソンへのサポートの重要性—
中田 亨 (メンタルケア病棟)	相談支援専門員と連携した患者へのアプローチ —理想に沿った退院施設を目指して—
◎竹橋 智美 (栄養課)	高濃度栄養補助食品の使用経験
石橋 良美 (谷野医院)	谷野医院における性同一性障害の受診者の現状と課題
石黒 達也 (3A病棟)	3A1病棟の現状～今後の病棟の在り方を考える —慢性期患者の動向調査から—
角谷 陽平 (医局)	退院調整に難渋した重度強迫性障害の一例

(◎は優秀論文賞)

医療安全対策相互ラウンドを実施しました

当院では今年度から「医療安全対策地域連携加算2」を算定することとなり、「医療安全対策加算1」届出病院との連携が必要となります。当院の連携病院である「かみいち総合病院」と「富山県リハビリテーション病院・こども支援センター」が、資料確認や書類審査、院内ラウンドを令和5年12月18日に実施しました。



審査結果や頂いたアドバイスを活かし、今後も患者さまが安心して安全な医療を受けられるよう環境を整え、良質な医療を提供できるように取り組んでいきます。

医療安全管理者 山本 浩子

法人の動き

月	日	事 項
11	3	第42回院内学会
11	17~	秋期職員検診
11	21~	高校1年生フィールドスタディ
12	1	健康課実地審査・実地指導
12	4	認知症疾患医療センター地域連携協議会
12	13	職員総会
12	18	医療安全対策相互ラウンド
12	29	創立記念式典・仕事納め式
1	1	※令和6年能登半島地震
1	4	仕事始め式
1	19	東海北陸厚生局適時調査

和敬会永年勤続者表彰

30年表彰

開 順子 (3A病棟 准看護師)
花木 裕子 (栄養課 調理師)

20年表彰

小中まゆみ (33病棟 看護師)
島田 雄介 (栄養課 調理師)
梶尾 智浩 (クライシスケア病棟 看護補助者)
長谷川美貴子 (検査 臨床検査技師)

15年表彰

中山 一恵 (谷野医院 精神保健福祉士)
森 藍美 (医事・医療情報課 事務員)

10年表彰

米田 拓由 (3A病棟 看護師)
徳中 風香 (クライシスケア病棟 看護師)
中山 哲 (3A病棟 看護師)
松井 由恵 (クライシスケア病棟 看護補助者)

20歳のお祝

門島麻衣子 (栄養課 調理員)

各種表彰

日本精神保健福祉連盟会長表彰

高嶋 郁子 (谷野医院 精神保健福祉士)

日本精神科病院協会会員病院職員永年勤続表彰

開 順子 (3A病棟 准看護師)
梶尾 都 (谷野医院 公認心理師)

富山県精神保健福祉大会長表彰 (15年勤続)

浦西 将之 (人事課 事務員)
角田南美江 (栄養課 管理栄養士)
加藤 正志 (総務課 事務員)
高島久美子 (クライシスケア病棟 准看護師)
田村 智子 (ストレスケア病棟 看護補助者)
中條 由佳 (外来 看護師)
伏木 一恵 (谷野医院 精神保健福祉士)
森 藍美 (医事・医療情報課 事務員)

富山県医師会医療従事者表彰 (10年勤続)

高野田真代 (訪問看護室 看護師)
篠島 冬奈 (33病棟 看護師)
篠島 恭輔 (3A病棟 准看護師)
梅本 智子 (33病棟 看護補助者)
米田 拓由 (3A病棟 看護師)

みなさん、
おめでとう
ございます！



永年勤続表彰された皆さんの記念写真

紙面に掲載されている患者さまの
写真につきましては、掲載に際し
て、ご本人または保護者のご了承
を頂いております。

編集後記

新年早々の「令和6年能登半島地震」において、
当院は幸運にも大きな被害はありませんでした
が、災害はいつ起きてもおかしくないことを
思い知らされました。地震の被災者・犠牲者の
皆様にお見舞い、お悔やみを申し上げます。(志)